

つなかりましょう

9

母の異変ご近所がキヤツチ

ていた。不安もあるけど、ここまできたら自宅を過ごさせてあげたいね」。哲さんがしみじみと語った。

川沿いの国道を車で進む。運転するのは滋賀県東近江市の永源寺診療所所長、花戸貴司医師(49)だ。私たちは診療所から約10分離れた上田満さん(93)、昌子さん(85)夫妻の訪問診療に同行した。

「昌子さんは重い認知症、満さんは寝たきりです。息さんが向かいの家で暮らして

「元気が」。上田さん夫妻の家を近所の人たちが訪れ、声を掛ける。散髪屋を営んでいた女性は、はさみやバリカンを手をやつてきて、夫妻の髪を整えてくれる。

「昌子さんは重い認知症、満さんは寝たきりです。息さんが向かいの家で暮らして

「元気が」。上田さん夫妻の家を近所の人たちが訪れ、声を掛ける。散髪屋を営んでいた女性は、はさみやバリカンを手をやつてきて、夫妻の髪を整えてくれる。

「昌子さんは重い認知症、満さんは寝たきりです。息さんが向かいの家で暮らして

「元気が」。上田さん夫妻の家を近所の人たちが訪れ、声を掛ける。散髪屋を営んでいた女性は、はさみやバリカンを手をやつてきて、夫妻の髪を整えてくれる。

「昌子さんは重い認知症、満さんは寝たきりです。息さんが向かいの家で暮らして

「元気が」。上田さん夫妻の家を近所の人たちが訪れ、声を掛ける。散髪屋を営んでいた女性は、はさみやバリカンを手をやつてきて、夫妻の髪を整えてくれる。



「それには、花戸先生やケアマネジャーがうちの妻のことを気遣ってくれ、本当に助かっている。先生には『朝起きて、父の心臓が止まってても救急車は呼ばず、先生に連絡する』って話してる」

「淡々とした哲さんの口調に、覚悟がにじむ。



上田満さん、昌子さん夫妻の自宅を訪れ診療する花戸貴司医師(左)＝滋賀県東近江市

上田さん夫妻の斜め向かいに住む長男哲さん(59)を訪ねた。両親の介護生活は4年半ぐらいになるといふ。初めは満さんが大腸がんの手術を機に弱ってしまい、昌子さんが面倒を見ていた。ところが、昌子さんにも異変が見られるようになる。ちょっとした変化に気付いたのは

人生の終わりについての意識などをお聞きするアンケートを実施しています。年代別の質問を用意していますので、ご協力願います。電子版「神戸新聞NEXT(ネクスト)」のトップページにある「いのちをめぐる物語アンケート」の文字をクリックし、専用ページからお答えください。締め切りは15日です。